

「まちを守るモノと者」

防犯設備士第99-5867号
岐阜県防犯設備協会 理事

山田 康雄



私が所属します岐阜県防犯設備協会は平成17年に設立され、今年で12年目を迎えます。現在37社の会員企業が所属し、県内各地において、防犯への理解を深めると共に、安全で信頼できる防犯設備の普及を図り、犯罪の防止を通して、地域の安全と秩序の維持に貢献することを目的として活動を行っています。

活動内容は、警察学校での講演をはじめとし、各地域における防犯啓蒙活動への参加協力、また最新防犯機器の展示及び説明会などを実施しています。また、近年では地元銀行と共同で、防犯設備購入に対する融資等を銀行窓口で案内するなど、当協会の認知度を深めると共に、最新機器への取替を促進するための活動を積極的におこなっています。私はその中でも主に各地域における講演活動などを担当しています。



私の会社は今年で創業80年を迎えますが、こうした防犯活動に積極的に関わり始めたのは約20年前でした。今でも覚えています、ちょうど美和ロックの名古屋支店を通りかかった時に、自分の名前と、テレビアニメの「ルパン3世」の声優さんが同姓同名であるという

理由から、興味本位で美和ロックの門をたたき、販売代行店になったのが始まりでした。その後、おりしもピックアップ犯罪が台頭し、より多くの知識を得るために防犯設備士の資格を取得しました。

当時は、マンションにおけるカギの取替需要が多く、毎週のように住民主催の説明会で防犯性の高いカギの重要性と、身近に防げる手段等を話していました。

また、私が家業を営む大垣市主催のイベントにて、防犯設備機器(カギやガラス、テレビドアホン)などを展示しました。同時期にJAさんの主催するイベントにも出展し、この2つのイベントには現在も欠かさず参加しています。

おかげさまで、参加することにより、当社のセキュリティ事業部に対する認知度が上がりました。

「毎年出展しているから」「あそこにいけば相談できる」という信頼が生まれたようです。大切なのはこうしたイベントには継続して出展していくことだと思います。地域に対し、職業を通じて貢献していくことは企業としても大切なことです。

また、地域新聞にコラムが掲載され、1年にわたり、防犯設備の案内や、取り組みかたも紹介させていただきました。



時期を同じくして、各地における防犯講演の依頼も多くいただくようになりました。私の場合は元来の性格からか、堅苦しい言葉遣いは避け、対話形式や映像を使い、職業を通じて経験した窃盗犯の手口や防ぎかたを訴えてきました。どちらかというと、笑いが多くあったかもしれません(笑)。

対象者は地域における防犯ボランティア活動をしていらっしゃる方が多かったため、講演の最後には、なぜ防犯に対する意識が必要なのか、そして防犯意識を伝える者としての使命・役割についてお話をさせていただいています。

現在は監視カメラが多く設置されていますが、ひとりの目より10人の目、さらには100人の目による協働意識が生まれた地域は、きっと防犯にも強い地域になることを信じて、お話をさせていただいています。



私はタイトルにもありますように、まちを守るには2つの「もの」があると思います。1つは最新の防犯設備機器である「モノ」。毎年、より使いやすく、より精度が高く、より確認しやすい防犯機器がでています。

今はAI-IoTの時代です。そしてAI技術がもたらしたものは「防犯性の強化」です。遠隔地からでも操作・確認ができ、また予測を立てることができる防犯システム。

およそ映画の中ではしか見るができなかった機器が我々の身近にまでできています。

私たち防犯設備士は先ずそういった知識を習得すると同時に、より多くの方たちに伝えていく義務があります。それこそがもう一つの「者」。つまりマンパワーにおける防犯機能だと考えます。最新の防犯機器を、倫理観に基づき、使用される条件や環境、そして利用するものの立場に立ち、あらゆる総合的な面からプロフェッショナルとして解説をし、提案していかなければなりません。

現在、知識はインターネットから得ることができます。

しかし情報過多の時代だからこそ、よりシンプルに、より具体的に、よりわかりやすく伝える「者」が必要なのです。

この「モノ」と「者」の2つが合致したとき、はじめて人や地域に役立つ防犯設備が生まれると思います。そしてこの2つが、それぞれのまちを守っていくと信じてやみません。これからも協会活動を通じ、多くの地域の方に、防犯の大切さを伝えていきたいと思っています。

私たち防犯設備士は「役に立つ防犯機器」の「伝道者」であるべきなのですから。



～「防犯CSR」のススメ。～

加藤電機株式会社
代表取締役社長

加藤 学



【はじめに】

昨今、各経済団体の指針により、特に大手企業を中心としたCSRへの取り組みが推奨されるようになり、従前の社会貢献活動を含めたCSRレポートを発行する企業が増加している。しかし、その内容は1997年12月に開催された第三回COP3の京都議定書を契機として欧州を起点に世界に拡大していった環境経営であり、あるいは株主や顧客向けの広報イメージ戦略に傾注したものが散見され、本来のCSR活動で提起されている課題を必ずしも満足するものではない。

一方、バブル崩壊以降も名だたる大手企業の不祥事が相次いで明るみになり、日本の市場経済価値に少なからず悪影響を与えていることも事実である。

今回、執筆の機会をいただき、全国防犯CSR推進会議が推奨する「防犯CSR」活動がいかに企業価値を高めることになるか、ご紹介させていただきたい。

【きっかけ】

◇私が全国防犯CSR推進会議の発起人の一人として設立にかかわったきっかけは、当時警察庁生活安全局で防犯CSRの概念を打ち上げた、ある警視からの質問だった。

愛知県セルフガード協会の懇親会の席で、「企業はなぜ防犯活動に無関心なのか、いやCSRの概念を本当に理解して経営しているのだろうか、十分に理解していれば経済事件や不祥事はもちろん、犯罪もっと起きにくい社会ができるのではないか?」といった核心をつくものだった。この質問の眼目は、“企業は”ではなく“企業経営者は”とすれば理解しやすい。

CSRという言葉は知っていたものの、深く考えたこと

がなかった私の最初の答えは、「企業も防犯に関心があるからこそ、こうした会に参加して活動をしているのではないのですか?」と、今思えば少々的外れな回答だったのだろう。

その後、この警視から愛知県警察本部生活安全総務課が主催する新春防犯CSRセミナーで、企業が実践する防犯CSR活動の事例を紹介して欲しいと依頼があったことは、まさに青天の霹靂であった。防犯CSRがどのようなものか十分に理解しないまま登壇した私は、自社が進める防犯活動と、理想的な安全安心な社会はどのようにしたら実現できるのか、また、そのための意識改革の必要性などを披露するにとどまった。

振り返ってみれば、警視の言う防犯CSRの概念の的を射てはいなかったようである。

セミナーの後、何か違和感を覚えつつもCSRに関連する著書を読み漁ったことを思い出す。結局のところ防犯CSRに直接たどり着く手がかりは得られなかったが、数か月間の探求により得られた知見があった。それは、国際標準化機構が推進して策定したISO26000のガイドラインに基づくCSR活動と防犯CSR活動はアプローチの角度が異なるだけで、実質的な目的や効果は同じであるということだった。いずれの取り組みも、この社会の持続可能性に寄与することそのものであり、個人以上に大きな力と社会的責任を持つ企業や組織に対するアプローチなのであった。

ISO26000に関する情報はこちら

<http://iso26000.jsa.or.jp/contents/>

【立ち上げ】

その後、当時上智大学大学院で地球環境学科の教鞭をとられていた藤井教授（現会長）や元警察庁生活安全局長で元警視副總監の岩瀬顧問からのご理解と多大なるご支援を賜り、事業者ら数名が発起人となって平成27年4月24日に日本で初めてとなる、全国防犯CSR推進会議が発足したのである。本会の活動は従来の防犯協会などによる統合的、総括的な活動とは異なり、それぞれの企業や事業者らが本来の事業活動を通じ、あるいは地域のステークホルダーとして実施する防犯関連活動を促進することを目的とし、次ぎのような事業を実施している。

1) 防犯CSR推進宣言の拡大

防犯CSR推進宣言とは各企業、事業者らが自らの意思を持って自己宣言するものである。宣言社らは自社の活動（事業活動も含む）がどのように社会に根差し、すべてのステークホルダーと共に安全安心に寄与しているかを検討して宣言をしており、平成29年4月25日現在の防犯CSR宣言数は313件に上っている。



みんなでまもる、みんなで作る。
Safety Nippon!

177
いいね！
シェア

<p>宣言！</p> <p>わたしたちは事業を通じて、地域の皆様とともに、街の安心・安全を未来へつなげます。</p> <p>Inochio イノチオグループ</p>	<p>宣言！</p> <p>私たちは、春日井警察署と共に安心・安全な街づくりに貢献します。</p> <p>インターフェイス株式会社</p>	<p>宣言！</p> <p>ラークファクトリー（染工場）は、安全・安心な街作りに取り組んでいます。</p> <p>ラークファクトリー株式会社</p>
<p>宣言！</p> <p>株式会社京楽は、安心・安全で快適なまちづくりに貢献します！！</p> <p>KYORAKU 株式会社京楽</p>	<p>宣言！</p> <p>（株）光瀬は住みよいまちづくりを目指します。</p> <p>光瀬 光瀬 株式会社 光瀬</p>	<p>これまでの宣言数</p> <p>313</p> <p>宣言</p>

みんなで宣言、広めよう活動の輪！

2) 防犯CSR実践企業表彰および防犯CSRマイスター表彰

主に、防犯CSR推進宣言をした企業や団体のうち、特に防犯関連活動を力強く推進している企業、団体、個人に対し防犯CSR実践企業および防犯CSRマイスターとして認定するとともに表彰を実施。



防犯CSRマイスター 第一号認定式
初代タイガーマスク 佐山サトル様



防犯CSR実践企業表彰の様子

3) セミナーの開催

防犯CSRの考え方を、幅広い業種業態の事業者らに周知することで、防犯活動への参加を促進することを目的として毎年1回以上セミナーや講演会を実施。





平成 28 年 10 月 26 日
C S R セミナー / 「企業価値を高める防犯 C S R」と
題して開催（ウインク愛知にて）

4) 防犯CSR活動実績紹介

当会ホームページには、各事業者様の防犯CSR活動について紹介するコーナーを設けており、防犯CSRの活動主体となっている方々に直接取材をし、そのレポートを掲載。

このように、地域の安全と安心の醸成には警察やプロの警備保障会社のみならず、地域を構成するすべての利害関係者、つまり、住民や事業者や行政関係者らを含むすべてのステークホルダーらが、個別にあるいは連携して目に見える活動を行うことで、あらゆる犯罪の芽を摘むことができるようになるということである。特に企業においては自社の事業活動を通じて実践できれば望ましい限りである。

こうした活動が、防犯活動はもちろんコーポレートガバナンスやコンプライアンスを実施するためのひとつの視座となり、また持続可能な社会に向けた試金石となれば幸いであり、さらには、全国各地で活躍する防犯に精通した防犯設備士らが、本件活動へのご理解いただき、防犯CSR推進宣言の実施はもとより、地域部会など具体的な活動に参加されることを期待してやまない。

活動実績紹介

<p>防犯ボランティアをサークル活動で 桃山学院大学 防犯バトロール隊「桃バト」</p>	<p>正義のヒーロー地球戦士ゼロスが地域の安全を守る 有限会社ジャングル</p>
<p>ポニーとのふれあいを通じて記憶に残る防犯イベントを 株式会社重馬クラブクレイン</p>	<p>大阪府警に協力。安まちメール普及のために自社商品を提供。 株式会社うどんや高一夜素本舗</p>
<p>街のクリーニング店さんが始めた防犯CSR活動が業界を動かした!? 山口県クリーニング業生活衛生同業組合 有限会社たかせん</p>	<p>人材育成が安全安心な店舗運営と地域に根ざした活動を支える 日本マクドナルド株式会社</p>
<p>「お笑い」×「防犯」で楽しみながら防犯のレベルアップを目指す お笑い防犯軍団 ツナコメ</p>	<p>労組と協働で全社一体となった防犯CSR活動を支援 明治安田生命保険相互会社</p>

全国防犯C S R推進会議の
HPはこちら

